

多彩な催し、充実した展示 ……賑わった文化祭……



鈴岡城址公園を学ぶ

もう一つは、二階研修室において特別企画展『鈴岡城址公園の歩み展』平成二十三年の開園百周年に向けてと題し展示があり、両日ともに、下平隆司さん

「食育」について投げかけていました。

館内各部屋には、四十を超える各種団体、グループによる展示や催しがされていました。玄関先には、JA竜丘女性部菊の会の皆さんによる見事な菊鉢が、この文化祭をやさしく出迎えてくれました。

保育園、小学生の展示を顔を凝らして見入っているお年寄りも大勢いました。分館展示コーナーでは、長野原分館は防災意識対策と題し、全戸が載った地図を避難場所の提示、防災グッズの展示

また、図書館、お話し部屋では折紙や水引を使って昔の遊びを楽しんでいる子どもたち。ホール外では、財産区、自由学校の催しに、森の素材を使って、のこぎり、カッターなど、ぎこちない手つきで使い、名札やペン立てといった自分だけの木工作品を作っていた子どもたち。和室では、茶道教室に通っている子どもたちが上手なお手前、抹茶を立てている姿が見られるなど、子どもたちも文化祭の顔を盛り上げていた様子が見られました。

館前では、商工会議所竜丘支部の方々による五平餅などの販売があり、餅＆宝投げもありました。小学校校庭では体育委員

今年度は特別企画が二つ設けられ、一つはふるさと学習室において特別ブース『みなおそう、私たちの食と農』竜丘に食農教育を』のテーマに五団体が展示やパン作りの実践などを行っていました。人が生きていく基盤に食生活があげられ、その「食」を考える中、農業をとおして、これから次世代を担っていく子どもたちと一緒に本来の食文化を学び、楽しんで継承していくことが大切であると、「食育」について投げかけていました。

もう一つは、二階研修室において特別企画展『鈴岡城址公園の歩み展』平成二十三年の開園百周年に向けてと題し展示があり、両日ともに、下平隆司さん

「食育」について投げかけていました。

館内各部屋には、四十を超える各種団体、グループによる展示や催しがされていました。玄関先には、JA竜丘女性部菊の会の皆さんによる見事な菊鉢が、この文化祭をやさしく出迎えてくれました。

保育園、小学生の展示を顔を凝らして見入っているお年寄りも大勢いました。分館展示コーナーでは、長野原分館は防災意識対策と題し、全戸が載った地図を避難場所の提示、防災グッズの展示

今年度は特別企画が二つ設けられ、一つはふるさと学習室において特別ブース『みなおそう、私たちの食と農』竜丘に食農教育を』のテーマに五団体が展示やパン作りの実践などを行っていました。人が生きていく基盤に食生活があげられ、その「食」を考える中、農業をとおして、これから次世代を担っていく子どもたちと一緒に本来の食文化を学び、楽しんで継承していくことが大切であると、「食育」について投げかけていました。

もう一つは、二階研修室において特別企画展『鈴岡城址公園の歩み展』平成二十三年の開園百周年に向けてと題し展示があり、両日ともに、下平隆司さん

「食育」について投げかけていました。

館内各部屋には、四十を超える各種団体、グループによる展示や催しがされていました。玄関先には、JA竜丘女性部菊の会の皆さんによる見事な菊鉢が、この文化祭をやさしく出迎えてくれました。

保育園、小学生の展示を顔を凝らして見入っているお年寄りも大勢いました。分館展示コーナーでは、長野原分館は防災意識対策と題し、全戸が載った地図を避難場所の提示、防災グッズの展示



「食育」展示ブースの光景

今年度は特別企画が二つ設けられ、一つはふるさと学習室において特別ブース『みなおそう、私たちの食と農』竜丘に食農教育を』のテーマに五団体が展示やパン作りの実践などを行っていました。人が生きていく基盤に食生活があげられ、その「食」を考える中、農業をとおして、これから次世代を担っていく子どもたちと一緒に本来の食文化を学び、楽しんで継承していくことが大切であると、「食育」について投げかけていました。

もう一つは、二階研修室において特別企画展『鈴岡城址公園の歩み展』平成二十三年の開園百周年に向けてと題し展示があり、両日ともに、下平隆司さん

「食育」について投げかけていました。

館内各部屋には、四十を超える各種団体、グループによる展示や催しがされていました。玄関先には、JA竜丘女性部菊の会の皆さんによる見事な菊鉢が、この文化祭をやさしく出迎えてくれました。

保育園、小学生の展示を顔を凝らして見入っているお年寄りも大勢いました。分館展示コーナーでは、長野原分館は防災意識対策と題し、全戸が載った地図を避難場所の提示、防災グッズの展示



発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,864人
男子	3,374人
女子	3,490人
世帯数	2,191戸
(17年10月末現在)	



鈴岡城址の見学

去る十一月五日、竜丘市民大講堂第三講が、「中山城と鈴岡城址公園縄張図について」と題して開かれました。

これは、平成二十三年に開園から百年という記念すべき時を迎える鈴岡城址公園にもう少し関心をもってもらうと同時に、鈴岡城址のような中世の山城について認識を深め、今後の整備活動に生かそうと計画されました。

当日は、会場となった公民館サークル室に、あふれんばかりの人が集まりました。

受講者は、講師の新潟県上越市教育委員会の福原圭一さんの、城址公園として整備がなされている実例の

また、城は領主のものではなく民衆のもの、という意識が強く、いくさが起こった場合などは村人の避難場所になったそうです。そんなことから、お城の普請にも村人が積極的に参加したというお話をお聞きし、私も含め「抱いていたイメージとだいぶ違うな」との声

が受講者から聞かれました。一番気になる鈴岡城については、現地を見ていないので詳しくは解らないが、松尾城も含め河岸段丘の地形を利用して作られたもので、伊那谷には、そういった城が多いと話されました。

講座が終了した後の講評では、鈴岡公園整備委員会委員長の下平隆司自治協議会長が、近づく開園百周年を前に「地元の方々の協力のもとに、出来る限りの整備をすすめてほしい。その第一歩として、詳細な縄張図の作成に向けて、整備委員会を中心に多くの方の参加をいただいで整備をすすめてほしい」と述べました。

近づく開園百年を前に 鈴岡城址を学習

去る十一月五日、竜丘市民大講堂第三講が、「中山城と鈴岡城址公園縄張図について」と題して開かれました。

これは、平成二十三年に開園から百年という記念すべき時を迎える鈴岡城址公園にもう少し関心をもってもらうと同時に、鈴岡城址のような中世の山城について認識を深め、今後の整備活動に生かそうと計画されました。

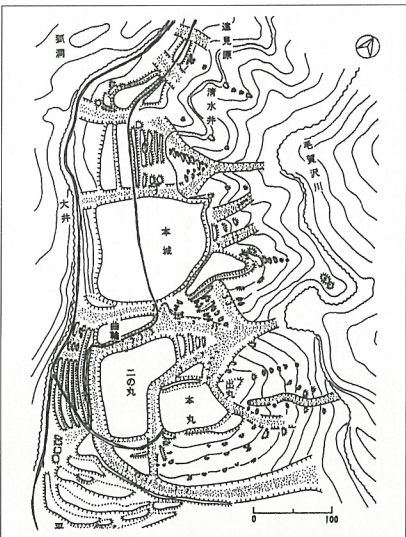
当日は、会場となった公民館サークル室に、あふれんばかりの人が集まりました。

受講者は、講師の新潟県上越市教育委員会の福原圭一さんの、城址公園として整備がなされている実例の

また、城は領主のものではなく民衆のもの、という意識が強く、いくさが起こった場合などは村人の避難場所になったそうです。そんなことから、お城の普請にも村人が積極的に参加したというお話をお聞きし、私も含め「抱いていたイメージとだいぶ違うな」との声

が受講者から聞かれました。一番気になる鈴岡城については、現地を見ていないので詳しくは解らないが、松尾城も含め河岸段丘の地形を利用して作られたもので、伊那谷には、そういった城が多いと話されました。

講座が終了した後の講評では、鈴岡公園整備委員会委員長の下平隆司自治協議会長が、近づく開園百周年を前に「地元の方々の協力のもとに、出来る限りの整備をすすめてほしい。その第一歩として、詳細な縄張図の作成に向けて、整備委員会を中心に多くの方の参加をいただいで整備をすすめてほしい」と述べました。



以前作成された縄張図

天竜川河川敷の親水公園「水辺の楽校」で、恒例の交流イベントが開かれました。今年で四回目を迎える集いに、親子連れや住民約百五十人余が催しや、魚のつかみ取りなどを楽しみました。

実行委員の皆さんが、早朝よりプールへの水くみ、テント張りなどの準備を行い、参加者を迎えました。

開会式の後、ささ舟など手作り舟のレース、ストラックアウト、紙飛行機飛ばしなどのゲームに、子どもたちも大盛り上がりでした。前日まで準備されて来られた皆さんを始めとし、両日とも大盛況だったことから、地区民で作上げた素晴らしい文化祭となりました。

子どもたちに人気の魚のつかみ取りでは、フナ二十キロ、金魚二・五キロ、ウナギ十六匹が放流されました。

子どもたちは、フナ二十キロ、金魚二・五キロ、ウナギ十六匹が放流されました。特にウナギの捕獲は、取っている方も、見ている方も楽しいものでした。と楽しく触れ合えた交流イベントとなりました。

親子で、また地元の方々から始まった教育方針も、本当の意味でのゆとり教育として定着しているとは、思えない。

義務教育から高校への進学に対しても、子どもたちの目線で見れば、多くの選択肢があることが重要。高校存続の為に、各高校の文化祭などで、個性・特徴といったものをアピールしている。私たちも地域ぐるみで、応援をし、何が出来るか考える時期である。

今回のことを契機に、もっと地域密着型の高校再編を目ざし取組みが必要。家計の中に教育費の占める割合が年々多くなり、生活全般の負担増に、懸念があるが故に少子化に結果的になっていくという。

教育面で、人口減少、少子化を見据えて高校再編を考へることも大切な反面、根本的な少子化の対策を更に充実させる事のほうが先ではないか。

私たち大人が子どもたちと同じ目線でじっくり考え、議論を盛り上げていきたいものである。

水辺に響く歓声!! 水辺の楽校交流イベント

天竜川河川敷の親水公園「水辺の楽校」で、恒例の交流イベントが開かれました。今年で四回目を迎える集いに、親子連れや住民約百五十人余が催しや、魚のつかみ取りなどを楽しみました。

実行委員の皆さんが、早朝よりプールへの水くみ、テント張りなどの準備を行い、参加者を迎えました。

開会式の後、ささ舟など手作り舟のレース、ストラックアウト、紙飛行機飛ばしなどのゲームに、子どもたちも大盛り上がりでした。前日まで準備されて来られた皆さんを始めとし、両日とも大盛況だったことから、地区民で作上げた素晴らしい文化祭となりました。

子どもたちに人気の魚のつかみ取りでは、フナ二十キロ、金魚二・五キロ、ウナギ十六匹が放流されました。

子どもたちは、フナ二十キロ、金魚二・五キロ、ウナギ十六匹が放流されました。特にウナギの捕獲は、取っている方も、見ている方も楽しいものでした。と楽しく触れ合えた交流イベントとなりました。

親子で、また地元の方々から始まった教育方針も、本当の意味でのゆとり教育として定着しているとは、思えない。

義務教育から高校への進学に対しても、子どもたちの目線で見れば、多くの選択肢があることが重要。高校存続の為に、各高校の文化祭などで、個性・特徴といったものをアピールしている。私たちも地域ぐるみで、応援をし、何が出来るか考える時期である。

今回のことを契機に、もっと地域密着型の高校再編を目ざし取組みが必要。家計の中に教育費の占める割合が年々多くなり、生活全般の負担増に、懸念があるが故に少子化に結果的になっていくという。

教育面で、人口減少、少子化を見据えて高校再編を考へることも大切な反面、根本的な少子化の対策を更に充実させる事のほうが先ではないか。

私たち大人が子どもたちと同じ目線でじっくり考え、議論を盛り上げていきたいものである。



魚のつかみ取りの一場面

最近、教育面で高校再編統廃合が話題となつています。県教委からは一方的な統廃合ありきの案が出され、各地区ごとの協議の場で話し合われている。

飯田下伊那も、飯田長姫と下伊那農業が統合される案も浮上している。

そもそも、なぜ高校再編の必要があるのか。今の運営方法に問題があるのではないかなど。根本的な理由が、明確化されていない。少なくとも私たちは、実態について知らされていない状況の中で統廃合再編の話が先走りしていると思う。

一昨年から文部科学省の方針である「ゆとり教育」から始まった教育方針も、本当の意味でのゆとり教育として定着しているとは、思えない。

義務教育から高校への進学に対しても、子どもたちの目線で見れば、多くの選択肢があることが重要。高校存続の為に、各高校の文化祭などで、個性・特徴といったものをアピールしている。私たちも地域ぐるみで、応援をし、何が出来るか考える時期である。

今回のことを契機に、もっと地域密着型の高校再編を目ざし取組みが必要。家計の中に教育費の占める割合が年々多くなり、生活全般の負担増に、懸念があるが故に少子化に結果的になっていくという。

教育面で、人口減少、少子化を見据えて高校再編を考へることも大切な反面、根本的な少子化の対策を更に充実させる事のほうが先ではないか。

私たち大人が子どもたちと同じ目線でじっくり考え、議論を盛り上げていきたいものである。

終始意気込みに満ちた 竜丘市民運動会2005

竜丘地区最大の行事である竜丘市民運動会が十月九日小学校校庭で、多くの地区民が集い盛大に開催されました。

前日の準備の開始時間から本降りとなった雨が、夜半まで続きました。大会当日の朝には止みましたが、校庭のいたるところには、水溜まりが残っていました。この水溜まりを、実行委員の人達が雑巾で丹念に吸い取る作業を行いました。



そのかいあって、開会式が始まるころにはいつもと変わらないグラウンドになっていました。今年の聖火は桐林分館の子どもたちから始まり、地区内を一巡。校庭のトーチに鮮やかに点火されました。下平涼くん(桐林)の力強

が続きました。

一般競技にも、多くの方の参加がありました。特にパン食い競争は大盛況。例年を見込んで用意したパンがなくなってしまうほどでした。この前の種目に、来賓特大パン食い競争があり、大きな食パンに必死にかじりつく姿に刺激されたのでしょうか。

足自慢と目立ちたがりやが競う二分の一の三周リレー。午前中の最後の分館対抗種目オールスターリレーでは、地区内の章駄天が集い抜きつ抜かれつのレースが行われました。

今年も、応援合戦が種目となり、多くの観客が注目。今年も、応援合戦が種目となり、多くの観客が注目。今年も、応援合戦が種目となり、多くの観客が注目。

するなか順番で分館毎の発表が行われました。子どもたちが創意工夫して練習を積み重ねた応援を披露。この応援合戦と競技中の応援で、応援大賞が審査されました。その講評では、「テントにいる地区の人たちも一緒に応援して応援している姿が印象的だった」「多くのバリエーションがあり振り付けも揃っていた」「少年数ながら元気があって頑張っていた」と、努力をたたえる感想が出されました。



優勝を決めた年次むかで

分館対抗の得点経過は、午前中は長野原分館が序盤からリード。一時抜け出しましたが、午後の種目で桐林分館が猛烈に追い上げ、三点差まで迫り最終種目、年次むかでを迎えました。

今年度の年次むかでは、「バトンマン」をつけるようにしました。例年バトンのたすきを渡す時に、白熱するあまり転倒することもありましたが、これを避けるため、バトンマンがたすきを受けとり、数メートル先の次の走者に渡すようにしました。

【成績】
優勝 長野原分館
二位 桐林分館
三位 時又分館
四位 上川路分館
五位 駄科分館
【応援大賞】
時又分館

多くの地域の人が集い協力しあい開催された運動会。この竜丘の力こそが、地域づくりの源であると感じさせられました。

自然の豊かさを体感 親子ふれあいハイキング

秋晴れに恵まれた十一月五日、親子ふれあいハイキングが、「自然との共生を探究」というテーマで行われました。秋のハイキングは、三年前より竜丘公民館と竜丘地区財産区が合同で開催しており、白井地籍にある財産区有林の里山を活用して、森の仕事や森での遊びを楽しんでいます。

今回は親子、一般の住民など約百名の参加者がありました。オムロン駐車場に集合した後、財産区の里山まで、約三キロのコースを移りゆく秋の自然を楽しむ



ながら歩いて行きました。開会式の後、まず、伐採木集め作業班・薪集め作業班・パン生地づくり作業班の三つの班に分かれて作業を行いました。森の仕事を体験する中で、間伐や枝打ちを見つけたようでした。

お昼には、パンの生地を枝に巻きつけて焼き火で焼き、採れたキノコのキノコ汁などに舌鼓をうち秋の山の幸を満喫しました。

最後に、森の形や匂い

など見つけながら楽しく散策するネイチャーゲームを楽しみ、自然の豊かさを体感しました。自然とのふれあいが親子でしっかりとできた一日となりました。

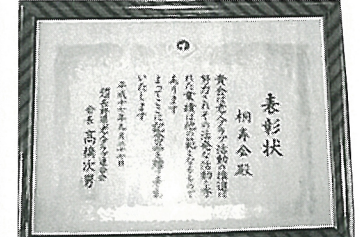
熱心に聴き入る 市政懇談会開催

十月二十八日、竜丘公民館において市政懇談会が開催され、百五十名を超える方が集まりました。今回は飯田市議会と行政からそれぞれ説明がありました。まず市議会より、「自治基本条例」について説明がありました。これは、住民自治の理念や市民の権利、自治体運営などの基本的な事項や市民参加のまちづく

りの指針などを定めるものです。地方分権の流れにより大きな責任が生じてきます。このため市議会では、わがまちの憲法を考える市民会議などを開催し、市民と議会、行政の役割や負担を明確にし、まちづくり指針について研究してまいりました。来年九月に、市議会初の議員提案による制定を目指しています。

「桐寿会」表彰される

桐林の老人クラブ「桐寿会」が、九月二十七日の長野県老人クラブ大会に於て表彰されました。県内には二千余の高齢者クラブがあり、今年表彰された優良クラブ十九団体ですが、その中の一つです。「桐寿会」の活動は、高齢者の仲間づくりを基本と



表彰されました。現在会員は、百名を超え、ゲートボールなどのクラブ活動も積極的で、桐林の六十五歳以上の方なら何時でも入会できるそうです。

して、健康・友愛・奉仕として、未来を担う次世代への育成支援など、地域の特色を活かした活動が認められました。

全国大会出場 女性消防団員

第十七回、全国女性消防操法大会が、去る十月二十日、横浜市消防訓練センターで行なわれ、飯田市消防団が、長野県代表として出場されました。



年々ハイレベルになってきたなかで、四十七都道府県中、二十一位という成績でした。このことは、日頃の活動が認められ、二人の努力のあった県代表選手となられたのです。今後ますますの活躍が期待されます。

次に「地域自治組織」について、住民に身近な事務事業などは自治振興センターへ移し、住民の意見を反映できるように、地区のミニ議会的な地域協議会と、各種団体の再編によるまちづくり委員会を組織し、行政と住民が協働してまちづくりを進めていく旨の説明がありました。

質疑では、住民負担が増えるのではとの問いに、限られた人や予算の中で、地域自治を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。組織のあり方論が先行し、公

